



2026年8月8日
第6課

靈的賜物

愛を追い求めなさい。また、霊の
賜物を、ことに預言することを、
熱心に求めなさい。
(1 コリント 14:1, 口語訳)



愛を追い求めなさい。霊的な賜物、
特に預言するための賜物を熱心に
求めなさい。
(1 コリント 14:1, 新共同訳)



コリントの教会が様々な問題で分裂していたことは明らかです。彼らは、説教者について、食事のあり方について、結婚するか独身でいるかについて、そしてどの霊的賜物を最も重んじるべきかについて、意見が対立していました。

最初の問題点について答えた後、パウロは、霊的賜物がどのようにして問題から一致の手段へと変わるかを示しています（I コリ12～14章）。

どの賜物が一番でしょうか？どれも違います！なぜなら

.....



霊的賜物:



賜物の多様性



多様性を通しての一致



共通の要素:



「最高の道」



特別な賜物:



異言の賜物



預言の賜物

靈的な賜物



賜物の多様性

賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。(1 コリント 12:4)

霊的な賜物を与えるのは誰でしょうか？(1 コリ 12:4-6)



1 コリ 12:4	次のような 違いがあります。	賜物	しかし、 同じです	聖霊
1 コリ 12:5		務め		主
1 コリ 12:6		働き		神
		霊的賜物		与え主

霊的賜物とその与え主との関係を理解しやすくするために、パウロはそれらを特定する際に、「賜物」「務め（奉仕）」「働き」という三つの用語を用い、その多様性を強調しています。



しかし、「与え主」はただひとりです。すなわち、[聖]霊、主[イエス]、そして神[父]です。つまり、三位一体の神が一致して働いているのです(ヨハ14:16)。



しかし、神はギリシア・ローマの「神々」が行ったような仕方で賜物をお与えになるではありません(1コリ 12:2)。そこには、恍惚状態もなければ、賜物を受ける者たちに対する(例えば巫女のような)階層的な選別も存在しません。

賜物の多様性

賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。(1コリント 12:4)

なぜ神は、人によって異なる賜物を与えられるのでしょうか。(1コリ 12:7)

霊的な賜物は、教会の「益」のために用いられます。その目的を達成するために、どの人が特定の賜物を使えるかは、神のみがご存知です。



数ある賜物の中で、パウロはどのようなものを例として挙げているでしょうか。(1コリ12:8-10、ロマ12:6-8、エフェ4:11-12)

1コリント 12:8-10

- ☑ 知恵の言葉
- ☑ 知識の言葉
- ☑ 信仰
- ☑ 健康（病気を癒す）
- ☑ 奇跡
- ☑ 預言
- ☑ 霊を見分ける力
- ☑ 異言
- ☑ 異言を解釈する力

ロマ 12:6-8

- ★ 預言
- ★ 奉仕
- ★ 教え
- ★ 勧め
- ★ 施し
- ★ 指導
- ★ 慈善

エフェ 4:11-12

- ♥ 使徒
- ♥ 預言者
- ♥ 福音宣教者
- ♥ 牧者
- ♥ 教師

パウロが一致を強調している点に、
よく注意してください。
なぜ一致は教会にとって重要なのでしょうか。

多様性を通しての一致

体は一つでも、多くの部分から成り、体のすべての部分の数は多くても、体は一つであるように、キリストの場合も同様である。(1 コリント 12:12)



神は唯一ですが、三位一体の各位にはそれぞれの役割があります。同様に、教会も一つですが、その構成要素の一つ一つが、地上のキリストの体の一部として、それぞれの役割を果たしています（1 コリ 12:12-13）。

パウロは、多様性の中での一致を強調するために、教会を人間の体に例えています。目には「賜物」である視力がありますが、耳にはそれはありません。しかし、この二つは互いに補い合い、協力し合っています。同様に、教会においても、一人ひとりが与えられた賜物に応じてそれぞれの働きを果たしています（1 コリ 12:28-30）。



これは、誰もが不可欠であること、誰一人として他者より優れている者はいないこと、誰もが他者の幸福を気にかけるべきであること、そして誰もが教会の団結のために尽力すべきであることを意味しています(1 コリ 12:15-27)。

I コリント 12:8～10、28、

12:8 ある人には“霊”によって知恵の言葉、ある人には同じ“霊”によって知識の言葉が与えられ、
12:9 ある人にはその同じ“霊”によって信仰、ある人にはこの唯一の“霊”によって病気をいやす力、
12:10 ある人には奇跡を行う力、ある人には預言する力、ある人には霊を見分ける力、ある人には種々の異言を語る力、ある人には異言を解釈する力が与えられています。**12:28** 神は、教会の中にいろいろな人をお立てになりました。第一に使徒、第二に預言者、第三に教師、次に奇跡を行う者、その次に病気をいやす賜物を持つ者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。

ローマ 12:6～8、

12:6 わたしたちは、与えられた恵みによって、それぞれ異なった賜物を持っていますから、預言の賜物を受けていれば、信仰に応じて預言し、**12:7** 奉仕の賜物を受けていれば、奉仕に専念しなさい。また、教える人は教えに、**12:8** 勧める人は勧めに精を出しなさい。施しをする人は惜しまず施し、指導する人は熱心に指導し、慈善を行う人は快く行いなさい。

エフェ（エペソ） 4:11 にある、

4:11 そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。**4:12** こうして、聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆき、**4:13** ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

賜物のリストをご覧ください。あなたの賜物は何ですか。

キリストの体を造り上げる（口語訳：建てる）ために、
あなたは自分の賜物をどのように用いますか。

共通の要素



「最高の道」

あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に努めなさい。
そこで、わたしはあなたがたに最高の道を教えます。 (1 コリント 12:31)

愛は賜物ではなく、「最も優れた道」です (1コリ 12:31)。それは、信者の人生における聖霊の実です (ガラ 5:22)。霊的な賜物は、愛を通してのみ正しく用いられるのです。

愛のない舌の賜物は、「鳴り響く銅鑼(ドラ)や、鳴り響くシンバル」に過ぎません。愛のない預言の賜物、知識の賜物、信仰の賜物は、何の意味もありません。愛のない施しの賜物や殉教の賜物は、無価値です (1コリ 13:1-3)。

コリントの信徒への手紙第一 13章4～7節は、霊的賜物を実践する上での適切な振る舞いについて、確かな指針を示しています：

愛とは何か

彼は忍耐強い

彼は親切だ

彼は真理を
喜びとする

彼はすべてを
忍び

すべてを信じ

すべてを望み

すべてに耐える

愛が「しない」こと

彼は嫉妬しない

彼は自慢屋では
ない

彼は高慢ではない

彼は失礼な人じゃ
ない

彼は利己的では
ない

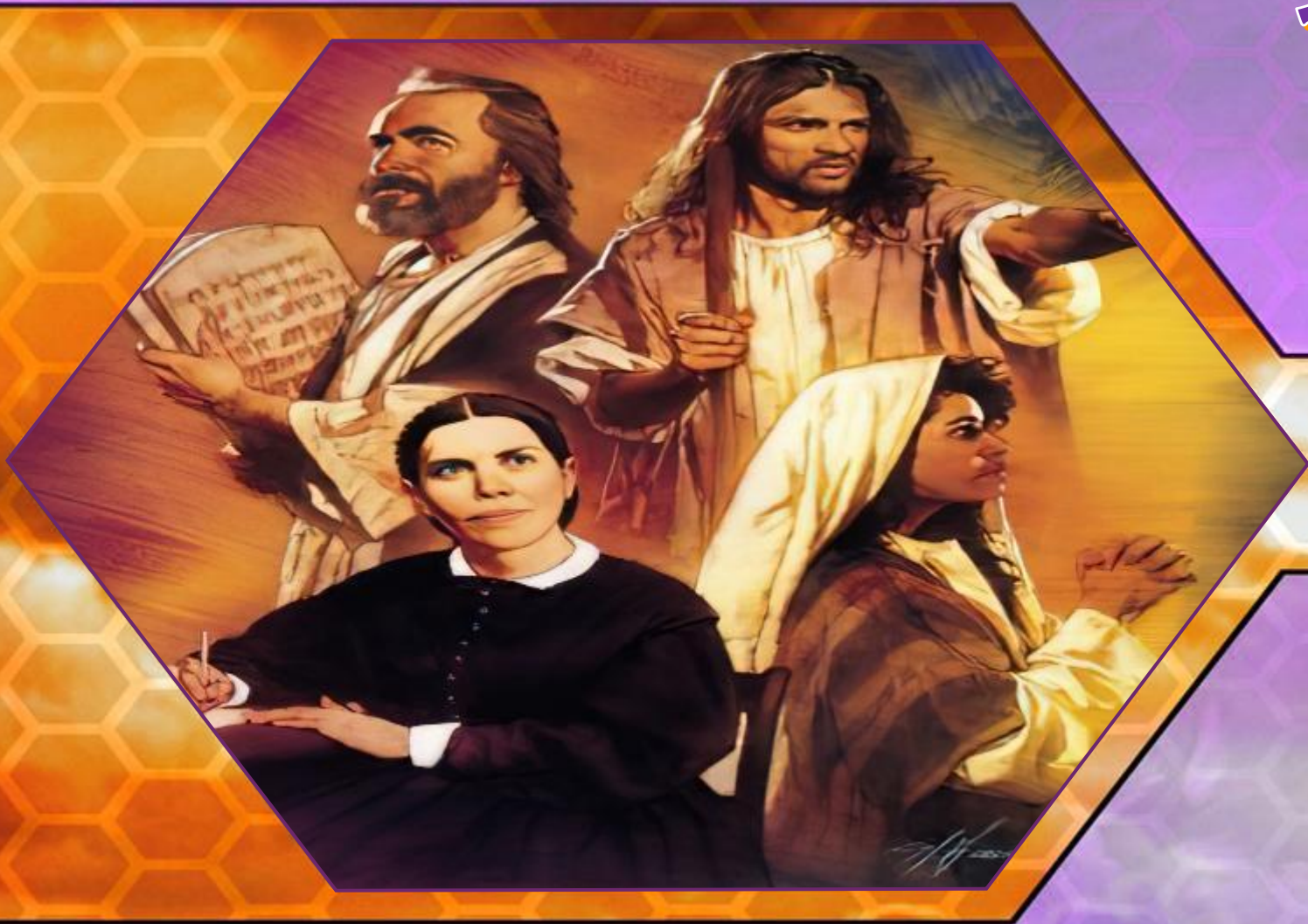
彼はめったに
怒らない

彼は恨みを
抱かない

彼は悪を喜ばない

なぜ愛は私たちの信仰の中心なのか。
神の愛を体験するうえで、その愛を他者に
反映しようと努めること以上に、
より良い方法があるでしょうか。

特別な賜物



異言の賜物

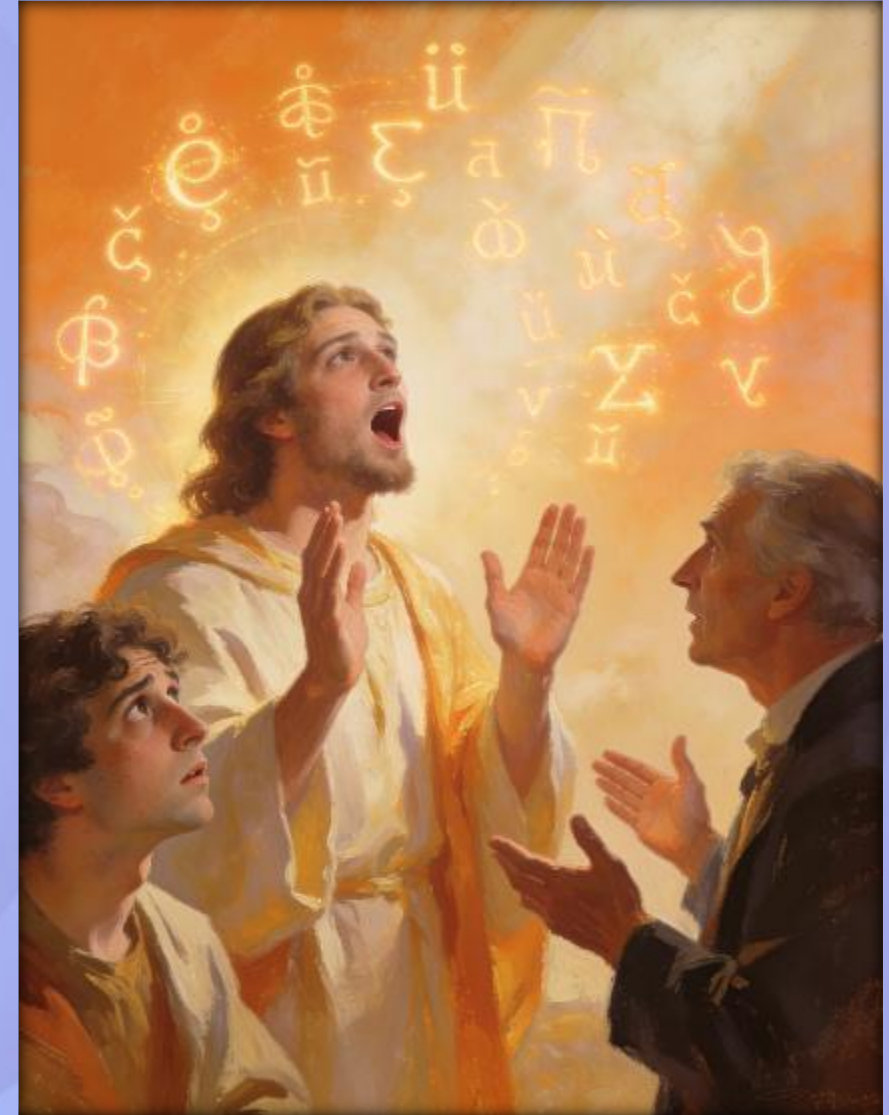
だから、異言を語る者は、それを解釈できるように祈りなさい。(1 コリント 14:13)

パウロが「異言の賜物」とその適切な用い方を強調していることは、コリントの教会の信徒たちがそれを誤用し、公の礼拝において混乱や混乱を引き起こしていたことを示唆している（1 コリ14:23）。

「異言の賜物」とは、その人自身には知られていない人間や天使の言語を話す能力のことです（1 コリ13:1）。この言語が聞き手には理解できないものである場合、通訳が必要となります（使2:8；1 コリ14:2、13-14、27-28）。

「すべての人が異言を語るべきだ」というパウロの願いは、私たち全員がその賜物を持つべきだと考え人々によって誤解されてきた（1 コリ14:5）。

実際には、この切望はすべての賜物を包含しています（1 コリ14:1）。パウロはすでに、「御霊の現れは、すべての人々の益となるように、一人一人に与えられている」（1 コリ12:7）と明確に述べていました。したがって、誰もが同じ賜物を受けるとは限りません。



あなたの教会には、外国語を話せる人がいますか。
彼らはいかにこの能力を用いて、
キリストのために人々に伝道できるでしょうか。
この事実は、パウロが述べている異言の本質を
理解するうえで、いかに役立ちますか。

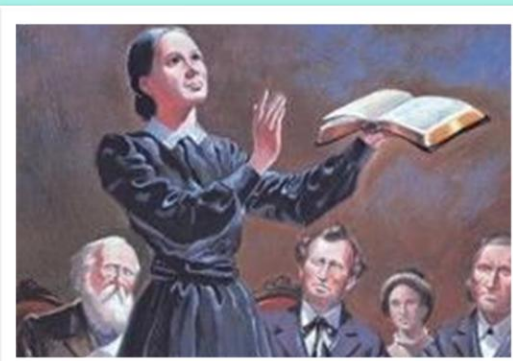
預言の賜物

しかし、預言する者は、人に向かって語っているのです、人を造り上げ、励まし、慰めます。(1 コリント 14:3)

預言の賜物を、単に未来の出来事を予言することだけに限定してはなりません。預言の賜物の主な目的は、人々の霊的成長、励まし、そして慰めにあるのです(1 コリ14:3)。



パウロはこの賜物を他のものよりも特に強調しています(1 コリ14:1、4、22-25)。しかし、混乱を招かないようこの賜物を正しく用いるよう強く勧めています。「すべては、品位を保ち、秩序正しく行われるべきです」(1 コリ14:40；1 コリ14:29-33参照)。



残された教会に与えられた特徴的な賜物として、それはエレン・G・ホワイトの生涯と働きにおいて特別な形で現れました(黙 12:17、19:10)。しかし、真の預言者をどのように見分ければよいのでしょうか。



予告された将来の出来事——それが条件付きでない限り——は必ず実現しなければならない
(申 18:22；エレ 28:8-9；ヨナ 4:2)



そのメッセージは、以前の預言者たちのメッセージと一致していなければならない
(申 13:1-3；イザ 8:20)



預言者はイエスの受肉について証しをしなければならない
(1ヨハ 4:1-3)



その人の生き方は、自らが説く聖書の教えと一致していなければならない(マタ7:15-20)

エレン・G・ホワイトの預言の賜物を信じる理由は、
一体どのようなものがあるのでしょうか。
彼女の役割や権威については、まだどんな疑問が
残っているのでしょうか。

「主のすべての御計画の中で、男女に多様な賜物を与えられるという主の計画ほど美しいものはありません。教会は主の庭であり、さまざまな木々、植物、花々で彩られています。主は、ヒソップが杉のような大きさを備えることを期待しておらず、また、オリーブが堂々としたヤシの木のような高さに達することを期待しておられません。多くの人々は、宗教的・知的な教育を限られた範囲でしか受けていませんが、もし彼らが神を信頼し、謙虚に労を惜しまなければ、神はこの人々にも果たすべき働きを用意しておられます.....」。異なる人々に異なる賜物が与えられるのは、働き手たちが互いに必要として いることを実感できるようにするためです。神はこれらの賜物を授け、それらは神の奉仕に用いられます。それは、所有者を栄光に輝かせるためでも、人間を高めるためでもなく、この世の贖い主を高く掲げるためです。それらは、偽りを証しするのではなく、真理を体現することによって、全人類の益のために用いられるべきものです。